令和５年度　いのちの授業　事例集（小学校）【生活】

掲載数 49

	地区	学年	教科等	テーマ	内　容	参考事項（講師・教材等）
1	川崎市	小１	生活	植物の生命 「あさがおをそだてよう」	２年生にもらったアサガオの種をきっかけに、大切にお世話をして育て、種を収穫することで命の繋がりについて学習した。 毎日お水をあげて、「ツルがのびたよ。」「花が咲いた！」と成長を喜ぶ姿や、虫がついて心配する姿などが見られた。種を収穫したときには、改めて「今度は、この種が育つんだ。命って無限だ！」と感動していた。	
2	川崎市	小１	生活	いのちのおとをきこう	心拍の音を聞き合う活動を通して、命があることを確認した。命の音が違うように、一人一人が思っていることや考えていることも違うことを繋げて考えた。動物にも命があることを心拍音から考え、動物たちの写真を見て動物の気持ちを想像した。これから自分が動物と接する時にどのように行動すればよいかを考えた。相手がどう感じているか、考えながらやりとりすることがいのちを大事にすることにつながると考えを広げた。	講師の方は、多摩区役所衛生課の職員３名。聴診器、動物の心拍音、動物の表情の分かる写真があったことで、興味をもって取り組めた。
3	川崎市	小２	生活	命の大切さ「せたさん物語」	動物愛護センターについての説明の後、２枚の犬の写真（動物愛護センター収容直後と収容後３００日後にそれぞれ撮影）を見た。そして、それぞれの様子や気持ちについて気づいた点を発表し、写真に写る犬に起こった物語を聞いた。２枚の写真に写る犬は同一だが、表情の違いがあることから、犬にも気持ちがあることを学んだ。子どもたちは生き物を大切にしたいという気持ちが芽生えたり、動物にも心はあることを理解したりした様子だった。	講師の方は、動物愛護センター（ANIMAMALL かわさき）の方。職員２名とボランティアの方２～３名。写真やスライドがあったことで犬の気持ちを想像しやすかった。
4	川崎市	小１	生活	防災教育 「じぶんにできること」	冬休み中、家族のために自分にできることを実践する『おてつだい大さくせん』に取り組んだ。自分にできることを考え実行できるようになってきたことをふりかえるとともに、元旦に起きた能登半島地震に触れ、災害時にも「じぶんにできること」を考える学習を行った。自分の命を守るために、自助袋を考えて班で意見を出し合ったり、避難所について知識を広げたりした。命を守るための心の準備と物の準備を学んだ。	Save the Children 「子どもにやさしい非常用持ち出し袋チェックリスト」
5	相模原市	小２	生活	こんにちは赤ちゃん	赤ちゃんのいる保護者に来ていただき、赤ちゃんの観察や交流を通して、命の大切さに気付いた。	講師は保護者。
6	相模原市	小２	生活	「みんな大きくなったね」	・胎児の生活 ・自分が生まれてきたときの様子 ・自分を大切にしていこう（自己肯定感） という内容を、助産師さんにお話していただく。	子育てサポートハウスmarimo助産院の助産師さん ※視聴覚室（助産師さん）で児童と対面で行う予定だが状況しだいでは、教室とオンラインでつなぎ、お話していただきます。

7	相模原市	小複合	生活	「もっとなかよし町たんけん」生き物と搾乳体験をしよう（食育）	①子牛の心音を聞く（獣医師も来校）　②牛乳ができるまでの過程のパネル展示、説明 ③搾乳の仕方、搾乳機の使い方（児童の指を使って実演）　④子牛を触る ⑤搾乳体験 　生き物とのふれ合いを通して、生き物にも命があることを知る。普段、飲んでいる牛乳ができるまでの過程を知り食べ物を大事にすることや命をいただいていることを考えるきっかけとする。	１・２年生児童 JA神奈川つくい・酪農協議会の獣医師
8	相模原市	小１	生活	生きものとなかよし	ポニーやモルモットとのふれあい体験をすることができた。いのちのぬくもりを実感したり、親しみを持ったりする活動ができた。生活科では、系統的に命を学習できる学習プログラムである。１学年はアサガオの植物に始まり、虫を飼い、動物へと具体的な活動や体験を充実させていく。今後も、実感できることを大切にした授業の工夫を行う。	
9	横須賀市	小１	生活	きれいにさいてね	夏休みを終え、子どもたちが育てたあさがおが種となった。５月に種まきしたことを思い出し、あさがおの成長過程を知るとともに、種から種へ、命は廻っていることを学習し、命のつながりを感じる様子が見られた。	
10	横須賀市	小２	生活	生き物の飼育	この単元では、生き物との出会いや飼育を通して、生き物に親しみをもち、生き物が命をもっていることに気付き、大切にしようという気持ちをもつことを目指している。単元の導入としては、校庭で生き物を探し、つかまえた生き物の種類ごとにグループを組んだ。子どもたちといっしょに「生き物を元気に育てる」という目標を立てた。グループごとに飼育の方法を調べ、実際に生き物を育てていく。生き物の様子に寄り添い、その様子に一喜一憂しながら子どもたちは活動を続けていった。飼育した生き物の姿や様子、動き方などをポスターや新聞、絵本やカードにまとめ、知識を言語化、動作化していくことでより生き物のことを近しく感じるようになっていったようである。単元の最後に、自分たちが学んだことをまとめていき、生き物の餌、体の仕組みや動き、生きている場所などのほかに「自分たちに命の大切さを教えてくれた」という意見が出た。生き物はその命を子どもたちに見せることで、そのはかなさや大切さを教えてくれている。生き物にとってふさわしい食べ物や場所を与えることで生き物は生きていくことができる。自分たちも保護者に大事にされていること、また自分たちが生き物を育てる際にはに心をくだかなければならないことに思いを至らせることができる。このようにこれからの生活に知識が生きていくことが主体的に学びに向かう態度として価値づけられる。 　また、参考として1年生の栽培単元では朝顔などの植物を育てる。その植物がきれいに咲き、やがて種になる場面でも子どもたちは「命の存在」や「命はくりかえす」ことに気付く。その気づきを逃さないように見取りを行えるとよい。 　子どもたちのこれからの生活の中に、そして心の中に「命の大切さ」が体験とともに残ることを期待している。	東京書籍「あたらしい生活」生きものなかよし大さくせん 光文書院「小学どうとく」わたしのものがたり

11	横須賀市	小２	生活	生活あさがおの栽培 保健体育	普段、お世話される立場の低学年だが、野菜を育てる学習では自分が世話をする立場になる。「今日から私がお母さん」という投げかけで学習が始まり、野菜の命を自分の行動が支えることを自覚する。毎朝、様子を見たり、水をあげたり、草を抜いたりと、命を育てることに夢中になり、命への責任感をもつことになる。また、そのことが、自身の命の由来に向き、「おへそのはなし」から、命のリレーの末に自分が存在していることを知った。	教材：あさがお栽培セット 「おへそのはなし」
12	横須賀市	小１	生活	いきもののいのち	あさがおのお世話を通して、生命の尊さについて考えた。観察の際に「あさがおさんは、なんて言っているかな？」と聞くと「水が気持ちいい」「暑いよ」など子どもたちは、一生懸命あさがおの気持ちを考えていた。あさがおと対話することによって、植物も命をもっていることに気づき、大切にお世話をしていた。また、学級で捕まえたカエルやカマキリの気持ちも想像させることで、生き物はみんな姿形は違っても命を持っていることを確認した。授業のまとめでは。種まき、開花、種取りを経験することで命の有限性や連続性などにも気づく子がいた。子どもたちからは、「ちいさな生き物も一生懸命に生きているから大切にしよう」という声が聞こえた。	
13	横須賀市	小２	生活	ヤゴ救出大作戦	秋～冬の間に学校内のプールで成長したヤゴを、プール清掃の前に救出し、飼育する授業を行った。子どもたちは、小さな命を助けなければいけないということに使命感を持ちながら学習に参加し、トンボになるまで責任をもってお世話をしたり、興味をもって観察をしたりした。その中で、脱皮前にあまり食べなくなったり、脱皮後に大きく変わる体の様子を見たりして生命の不思議さを感じることができた。	１年　生活 いきものとなかよし
14	湘南三浦	小１	生活	じしんがおきたとき、じぶんのいのちはじぶんでまもる	地震が起きた時の対処方法について、１年生なりに考えた。①地震が発生した時、自分の身を守る方法　②地震が収まったあとの、避難の方法　③家族と合流する方法　④家や帰り道で地震が起きたら　授業としても行うが、家族と避難方法や避難場所を確認する、という宿題も出すなどした。	各学期に行われる避難訓練の事前指導として、１時間ずつ行った。宿題も出した。
15	湘南三浦	小１	生活	あさがおを育てよう	一人一つのあさがおを育て、観察記録を残した。種からの発芽・成長・開花・採種までの過程や生き物を大切にすることを学んだ。枯れたあとのつるも図工の学習の時間にリースにすることで資源を無駄なく活用することもでき、育てたものを形に残すこともできた。	
16	湘南三浦	小２	生活	食育 「畑の野菜を育てて、おいしい料理を作ろう。」	【学習活動】夏の終わりに、大根やカブや小松菜の種をまき始め、11月ごろに野菜ができるように計画した。11月の調理実習では、できた野菜（大根、カブ、小松菜）で、パスタを作って食べた。 【児童の様子】児童は、野菜を育てた経験がなく、野菜が小さいうちは、「これが本当に大根やカブになるのか？」と不思議そうに水やりをしていた。しかし、段々と野菜が大きくなり大根やカブの形になると、いつも食べている野菜だという認識をもちはじめた。「大きくなーれ」と水やりをし、愛情をもって野菜を育てるようになった。調理実習では、自分が作った野菜を食べたのがはじめての経験だったので、とても満足していた。	

17	湘南三浦	小１	生活	朝顔の観察	種から観察しながら朝顔をみんなで育てていた。だんだん大きくなってきた朝顔を持って帰るために自分の植木鉢に植え替えた。その後は自分がその朝顔の命を担っているという気持ちでお世話を行った。	
18	湘南三浦	小１	生活	植物に親しみ、大切に育てようとする	「あさがお」を種から継続的に育て、観察を続けることで変化や生長に関心をもち、それらは生命をもっていることや生長していることに気づくことができた。 「さつまいも」を育て、秋に収穫をした。普段食べているものの生長を感じ、より身近に興味をもつことができた。また、自分たちで収穫をすることで、食事を通して生命をいただいていることを感じることができた。	生活科の観察カードを使用することで、生命あるものを大切にしようとする気持ちを喚起できた。
19	湘南三浦	小１	生活	あさがお	５月からあさがおの種をまいて、一人ずつ育てた。一つ一つの種を大切にまき、毎日水をあげて育てていた。9月まで育てる中で、植物の命について考えた。また、道徳でも自分の周りにある様々な命について考えた。	
20	湘南三浦	小２	生活	「梨の生長」	給食に梨を提供している梨園を6月から10月まで折々に訪れ、梨が育っているのか観察をした。栽培農家の工夫や苦労を知ることができた。	講師は近隣の梨農家の方。
21	湘南三浦	小２	生活	「食育」	枝豆のさやをとり、旬の野菜に触れ、身近な食べ物に親近感を持ち、実際に野菜に触れることで詳しく観察し、食べ物に興味を持つことができた。	講師は、地域の農家の方。
22	湘南三浦	小１	生活	命の大切さ	アサガオの栽培を通して、生命の尊さについて考えた。種を植え、水やりなどの世話をしながら、生長の様子を見守った。動物と同様に植物も命をもっていることに気づき、大切に世話をしていた。友だちと自分のアサガオの生長を見比べる中で、生長速度に違いがあることに気付き、アサガオの生長に不安を抱く児童も見られたが、人間の成長と同じでアサガオの生長にも個人差があるのだと、考える児童もいた。アサガオも人間と同じように生きていることに気づくことができた。夏休みから秋にかけて、花が咲いた後に種を収穫した。その種を植えると、翌夏またアサガオが花を咲かせることを知り、命の有限性や連続性など生命のすばらしさにも気づくことができた。	（使用教材） 東京書籍・生活 「きれいにさいてね」
23	湘南三浦	小２	生活	生き物を育てよう	プールやビオトープから採取したヤゴ、オタマジャクシ（カエル）、メダカ、ドジョウ等を飼育し、観察を行った。 命を大切にする心を育み、命の尊さを実感することができた。	
24	湘南三浦	小１	生活	植物に親しみを持ち、大切にしようとする心を育てる。	あさがおを継続的に栽培する活動を通して、変化や生長の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることや生長していることに気付くとともに、あさがおを大切にしようとする心情を育むことができた。	

25	湘南三浦	小１	生活	あさがおを育てる	５月に種をまいてから、半年近く「自分のあさがお」として１人１鉢を育てた。水やりや観察を通して、日々の生長を目の当たりし、種を取り終わって根の観察をする頃には、「おつかれさま。」「根っこが土の中でがんばっていたんだね。」「根を見たら、またきれいなあさがおの花が見たくなった。」等、優しい心で植物の世話をしようとする心情が育った。	
26	湘南三浦	小１	生活	あさがおをそだてよう やさいをそだてよう	生き物は助け合っていきていることを、様々な生き物同　　士の関りから考えるとともに、考えたことをワークシートに書き発表した。また、自分の心臓の鼓動の変化を感じさせて、自分が生きていることを感じる体験することで、鼓動の変化に気づいた子どもたちが驚く様子が見られた。併せて、自分以外の植物や生き物の命についても考えた。	たのしいせいかつ 大日本図書
27	湘南三浦	小２	生活	自分発見	生まれてから今日までの自身の成長をたどりながら、できるようになったこと、わかるようになったことについて振り返った。誕生秘話、幼かったころのエピソードなどについて、こども自身が保護者に直接取材をすることで知らなかった自分を知り、保護者からの思いや願いを感じる活動となった。	各担任
28	湘南三浦	小１	生活	『はなややさいとなかよし』	アサガオや野菜を育てることを通して、いのちに愛着をもつ感受性を育んだ。観察活動を通して、児童は、これまで気づかなかった植物の色や形や変化に気づくようになっていった。生き物をケア（世話）することで、いのちの存在に気づく学びができた。	
29	湘南三浦	小２	生活	いきもの　なかよし　だいさくせん	生活科の授業をきっかけにし、いきものを教室で飼育した。いきものを世話する体験を通し、命の大切さを学んだ。更に、道徳で生きもののに興味をもち、その命を大切にした「ファーブル」の物語についても学び、生きものの命の尊さについての考えを深めた。	道徳 「昆虫博士ファーブル」
30	県央	小１	生活	「きれいに　さいてね」	生活科でアサガオを育てた。植木鉢に土を入れ、タネ植え・肥料をあげて水やりなどの世話をしながら、成長の様子を見守った。発芽した小さな芽を見て「葉っぱがでたよ。」と友だちと一緒に喜ぶ姿が見られた。日に日に葉の数が増えると成長した喜びを感じ、登校してからはりきって毎朝水やりをして育てる姿が見られた。「どんな色の花が咲くかな。」「ピンクの花だよ。」と友だちどうし話す姿が見られた。今後あさがおのつるのリースを作ったり、来年入学する１年生に種のプレゼントをしたりするなど、育てたアサガオから友だちとの交流を深めていきたい。	アサガオの 種まきセット
31	県央	小１	生活	動物とのふれあい	実際に動物と触れ合うことを通して、人間と同じように動物にも命があることに気づき、大切にしていかなければならないということを学んだ。動物の温もりを体感し、生きていることを実感した。	こどもの国ふれあい動物園

32	県央	小２	生活	明日へつなぐ自分探検	１学期に町探検を行い、２学期にはさらに学校と町で働く方にインタビューをさせていただいた。その中で、子ども達は「たくさんの人に支えられている」「ありがとう。自分達も何かしたい」という感想をもっていた。３学期は「明日へつなぐ自分探検」ということで、自分の生きてきた８年間を見つめ、成長のアルバムを作る学習を行った。冬休みに家族にインタビューをし、写真やお手紙も用意していただいた。「大人になっても残るものだから丁寧に作ろう」とはりきって取り組んでいた。	
33	県央	小１	生活	「きれいにさいてね　わたしのはな」 「なかよくなろうね　小さなともだち」	４月から育て始めた「アサガオ」の世話。アサガオにあった世話の仕方を考え世話をする活動や種取りの活動を通して、植物が自分と同じように生命を持っていることや成長していくこと、生命がつながっていくことに気がつく様子が見られた。また、学校の敷地内の昆虫やダンゴムシの世話にも取り組んだ。自分と同じ生命を持った様々な生き物が身の回りにはたくさんいること、自分たちと同じように成長すること、それぞれの生き物にあった世話の仕方があることに気がつくことができていた。	
34	県央	小１	生活	タネの授業	それぞれの植物が仲間を増やすために進化した形について、実物を飛ばしたり、紙で模型を作って飛ばしたりして体験的に学んだ。その学習を通して命のつながりについて学んだ。	海老名市立中学校教諭
35	県央	小１	生活	生きもの大すき	学校にいるモルモットや昆虫のふれあいやお世話を通して、成長や命の尊さやについて気づき、生き物を大切にすることを学んだ。モルモットに優しくふれあうことや生活の様子を観察することで、生きていることや命を大切に扱うことを学んだ。また、昆虫については主にお世話することを通して、生きていく上での食べ物や住む環境、成長や弱ってしまうことへの気づきをもとに、最後は自分たちでお世話した昆虫たちをどうするべきか考えた。	
36	県央	小２	生活	大きくそだて わたしの野さい	120名以上の児童全員が、自分の植木鉢にミニトマトの苗を植えた。ミニトマトの育てやすさと、みんなで同じ野菜を育てることで声を掛け合う機会が多くなることを期待して、同じ野菜を育てた。ミニトマトに声をかけながら水やりをし、真っ赤なミニトマトができると大喜びで収穫した。大きくなるにつれて、自主的に水やりをする児童が増え、声を掛け合いながら世話をしていた。全員のミニトマトが大豊作となった。水やりのタイミングや量を考えたり、芽かきをしたりすることで元気に大きく育つことなど、収穫までの過程で様々なことを学んだ。	ミニトマト
37	県央	小２	生活	大切にそだてよう	生き物を飼ったり、育てたりしながら、生き物が育つ場所や、食べるものは違うが、成長していくことを知り、変化の様子に関心と親しみをもち、生き物も自分たちと同じように生命をもっていることに気づいた。また、さまざまな生き物をいろいろ調べ、これからも生き物の命を大切にしながら関わろうとする気持ちを持つことができた。	教材：「みんな生きている」啓林館

38	中	小１	生活	きれいにさいてね	一人一鉢のアサガオを育てることで、自分の育て方によって、アサガオがしおれたり、元気になったりし、アサガオが生きていることを実感できるようにした。また、つるが大きく育ち、花が咲き、やがて多くの種ができると知ることで、命が繋がっていくのだと気付いた児童もいた。	
39	中	小１	生活	「いのち」とは	「動物愛護センターについて知る」では、神奈川県の中で横浜、川崎、相模原、横須賀市を除いた県内のすべての地域から、保護された犬猫がくる。施設内には、８才の猫や３才の犬、他にも亀や鳥など、様々な生き物が過ごしていることを学んだ。 「『いのち』について考える」では、施設に来る犬や猫の気持ちはどんなだろうか。施設に来てすぐは、威嚇したりおびえたりしているが、しばらくすると人から餌をもらったり一緒に遊んだりしていることから、動物も人と同じ気持ちがあることを学んだ。 みんなができることとして、動物も人と同じであること、最後まで責任もって飼うことを話し合った。	動物愛護センター、 獣医師
40	中	小２	生活	自分よりも小さな生き物の命	１年生の経験から２年生でも「植物を育てたい！」という子どもの思いから始まった本学習では、自分よりも小さな命である植物を育てることを通して「命を大切に育てたい」という心情を育むことをねらった。お気に入りの野菜を選び決めること、実がなったらどうしたいのか等、子どもの思いや願いを大切にしながら単元を児童とともに作り上げた。野菜の葉や実を「虫が食べている」「カラスが食べている」というトラブルが起こった。そんなときは、ネットを張ったり、かかしを置いたりと、多くの子が切実感をもって取り組んだ。野菜の小さな変化に気付き、互いの成長を伝え喜び合うことで、継続的に命と関わり身近に感じることができた。	新しい生活下 ぐんぐんそだてわたしの野さい
41	中	小２	生活	おへそのひみつ	へそやへその緒の役割について焦点を当ててお腹の中で成長していく赤ちゃんの様子について学び、いのちのつながりを理解できるようにした。授業を通して、自分や周りの人は保護者をはじめとしたいろいろな人の愛情と保護によって大切に育てられたことを知り、自他のいのちを大切にしたいと感じた児童もいた。	養護教諭による授業
42	中	小２	生活	うさぎのラスク	本校の特色ある教育活動として、飼育活動がある。２年生も、卒業する６年生から１年時の終わりにウサギのラスクを譲ってもらい、大切に育ててきた。 しかし、２年時の１月、ラスクが11才8か月で息を引き取った。譲り受けるまで１年近くかけて準備し、世話をするだけでなく一緒に遊ぶことも楽しみにしていた児童にはショックで泣いている子もいた。死んでしまったラスクに、人間の別れのようにお別れ式をしたり、手紙を書いたり、折り鶴を折ったりした。「うさぎもいろいろ教えてくれる先生なんだね。」「同じうさぎには会えないね。」と、死を受け止めるための時間を過ごした。	学校飼育動物 （うさぎ）

43	県西	小複合	生活	野菜はかせになろう	野菜を育てる活動を通して、成長する過程や子孫を残そうとする工夫について、観察し調べ学習を行った。トマトの実が赤いことやキュウリの実にトゲトゲがある理由が、子孫を残すためだと知り、命をつなぐためにいろいろな工夫があることに、生命のたくましさを感じていた。	
44	県西	小１	生活	「いきものとなかよし」	継続的に生き物を飼育する活動を通して、生き物の生態、変化や成長の様子について考え、それらが生命を持っていることや成長していることに気付くとともに、生き物に親しみをもち、大切にできるようにすることをねらいとした。校庭で捕まえた飛蝗の種類や餌を調べ、生き物が快適に生活できるよう努める姿が見られた。しばらく飼育を続けていたが、生き物の気持ちを考え、逃がしてあげたほうが良いという考えが児童の中から出てきた。逃がした後のケースを片付けると卵が残っており、命のつながりに感動する児童もいた。	
45	県西	小１	生活	いきものとなかよし	春、夏、秋、冬を通して、学校そばの「ほたる田」という生き物を観察できる場所に行き、生き物や植物との触れ合いを続けてきた。そこで見つけた生き物を継続的に世話をする活動を通して、生き物の食べ物、様子、変化に関心をもち、世話の仕方や、かかわり方について考えることができた。また、生き物には生命があり、思いやりをもって接することの大切について考えることができた。	
46	県西	小１	生活	むしだいすき	校庭で生き物を探し、虫などの小さな生き物に親しみをもち、それらがいろいろな場所で生きていることに気付く。校庭の草むら、落ち葉の下、花壇のブロックなどの付近にいる生き物をさがし、捕まえて観察した。あまり関心がなかった児童も、友達が虫を触ったり、えさを与えたりする様子を見て、興味を持ち、飼い方を調べたり、世話をしたりするようになった。上手に世話をして、元気でいてほしいという思いが強まっていった。	学校図書　みんなと学ぶ小学校生活　上　「むしだいすき」
47	県西	小１	生活	「むし　だいすき」	校庭や畑に生き物を探しに行くと、バッタを見つけた。その見つけたバッタを飼うことになるが、飼育の仕方が分からなかったので、本で調べたり、他の学年に飼育方法を聞きに言ったりして飼育を始めた。休み時間には、餌を取ってくるなど、自分たちで育てようとしている姿が見られた。	
48	県西	小２	生活	「生きものをそだてよう」	カマキリ、アリ、ダンゴムシ、チョウなど、１人１匹ずつ生き物を選び、個々で飼育を担当した。毎日の世話を継続して取り組んだことで、児童一人ひとりに責任感も芽生えた。虫が苦手な子も、生き物を育てていくうちに「餌を食べた！」「成長している！」と関わりをとおして喜びを感じている姿が見られた。	

49	県西	小１	生活	わたしのあさがお	生活科の学習で、あさがおを育てた。種を見て「こんなに真っ黒で小さな種からきれいな花が咲くんだね。」と不思議そうに観察していた。一人一鉢で栽培し、全員が毎朝水やりを欠かさず行ったり、芽が出たか観察したりするなど大切に育てる様子が見られた。きれいな花を咲かせるためには工夫が必要だと知り、頑張って世話をしてきた。そして、夏まで観察を続け、花が咲くと、「花が咲いたよ。」「きれいな色だね。」とみんなで喜び合った。自分の手で頑張って世話をした分だけ花が咲き、成長を実感できたことで、花が咲いた時に大きな感動を味わえたと言える。やがて花が枯れ、種ができると、また来年花を咲かせるために大事にとっておくことに決めた。自分たちと同じ命が存在していることへの実感につながった。	